

注 意 報

8 病 第 1 7 号
令和 8 年 7 月 2 3 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予察注意報第 2 号

- 1 作物名 水稻
- 2 病虫害名 斑点米カメムシ類
- 3 発生地域 府内全域
- 4 発生時期 出穂期から収穫期まで
- 5 発生量 平年比多い

6 注意報発令の根拠

- (1) 7 月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、府内全域の確認ほ場率は 36.7%で平年比多く、平均虫数は 1.2 頭で平年比やや多い (表 1)。

主要な発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ (写真 1)、アカスジカスミカメ (写真 2)、ホソハリカメムシ (写真 3)、トゲシラホシカメムシ (写真 4) 及びクモヘリカメムシ (写真 5) であった。

表 1 斑点米カメムシ類調査結果 (7 月第 3 ~ 4 半旬 : 本田 20 回振りすくい取り調査)

年度	山城		南丹		中丹		丹後		京都府	
	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数
R 8	16.7	0.2	33.3	0.9	16.7	2.8	66.7	1.0	36.7	1.2
平年比	並	並	並	やや多	並	多	多	やや多	多	やや多
	並		やや多		やや多		やや多		やや多	
平年	20.0	0.6	21.1	0.5	16.7	0.7	20.0	0.7	19.7	0.6
R 7	0.0	0.0	33.3	1.4	33.3	2.5	22.2	0.2	23.3	1.0
R 6	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	2.8	44.4	3.0	23.3	1.5
R 5	16.7	0.2	55.6	0.6	16.7	0.2	22.2	0.2	30.0	0.3
R 4	16.7	1.2	22.2	1.2	0.0	0.0	33.3	1.0	20.0	0.9
R 3	50.0	1.8	33.3	0.6	16.7	0.3	11.1	0.1	26.7	0.6
R 2	0.0	0.0	33.3	1.0	16.7	0.2	22.2	0.6	20.0	0.5
R 1	66.7	2.0	22.2	0.2	16.7	0.2	33.3	1.4	33.3	0.9
H30	16.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.3	6.7	0.2
H29	16.7	0.2	0.0	0.0	16.7	0.3	0.0	0.0	6.7	0.1
H28	16.7	0.2	11.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.1

* 虫数は、1 ほ場当たりの平均値。

- (2) アカスジカスミカメの予察灯（60W）への誘殺数は、京田辺市及び京丹後市で平年比やや多く（＋）、亀岡市で平年比多い（＋）。府全体では、平年比やや多い（＋）。

場所	本年	平年値
京田辺市	13	6.6
亀岡市	232	109.0
京丹後市	112	83.5

※6月第1半旬～7月第3半旬までの合計誘殺虫数(頭)。

- (3) アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯（60W）への誘殺数は、京田辺市及び京丹後市で平年並、亀岡市でやや平年比多い（＋）。府全体では、平年並。

場所	本年	平年値
京田辺市	7	15.3
亀岡市	144	54.9
京丹後市	37	34.3

※6月第1半旬～7月第3半旬までの合計誘殺虫数(頭)。

- (4) イネカメムシ（写真6）の予察灯（60W）への誘殺数は、京田辺市及び京丹後市で平年比やや多く（＋）、亀岡市で平年並。全体では、平年比やや多い（＋）。

場所	本年	平年値
京田辺市	1	1.7
亀岡市	6	7.9
京丹後市	4	0.9

※6月第1半旬～7月第3半旬までの合計誘殺虫数(頭)。

- (5) これまでに府内全域でミナミアオカメムシ（写真7）の発生を確認している。

- (6) 向こう1か月の気温は平年比高い（＋）と予想されている。



(写真1) アカヒゲホソミドリカスミカメ



(写真2) アカスジカスミカメ



(写真3) ホソハリカメムシ



(写真4) トゲシラホシカメムシ



(写真5) クモヘリカメムシ



(写真6) イネカメムシ



(写真7) ミナミアオカメムシ

6 防除上の留意事項

(1) 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にする。したがって、水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、畦畔の草刈りを行うことが有効である。草刈りは、イネが出穂する2～3週間前と出穂直前の2回行うと効果的である。作業の都合上、1回で済ませる場合は、必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませる。

出穂期に近づきすぎteから行くと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。

(2) 農薬による防除

カメムシ類の密度が高い水田では、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望ましい。

近年、イネカメムシの発生量が増加している。他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂期に水稻の籾の基部を吸汁して不稔籾を生じさせ、穂が充実せず直立する。そのため、イネカメムシが多発している場合は、穂揃期以降ではなく**出穂期から防除**することが重要である。また、穂揃期以降に加害されると籾の基部が変色した斑点米を生じ、等級格下げの原因となる。

農薬の散布にあたっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。また農薬の選択にあたっては、使用基準を遵守して適正に使用する。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報提供システム」を参照のこと (<https://pesticide.maff.go.jp/>)。

用語解説

出穂期：全茎の40～50%の穂が出たとき。

穂揃期：全茎の80～90%の穂が出たとき。

傾穂期：穂揃期の約1週間後。穂が傾きかけたとき。